

【2016年度の総括】

① 収支状況（表中の単位：千円）

決算見込み		予算比 (%)	前年比
収入	52,159	98.9	⇒
支出	42,343	102.3	⇒
経常収支差額	9,816	86.7	⇒



評価：今年度も、新規利用者の契約は少なく、数年利用が無かった方が再開されたり、入院され利用が無くなるなど、月の利用者の増減の波はあった。職員・登録ヘルパーでは、膝・腰・精神に問題を抱え、それが原因での短期～長期休職による稼働率低下が目立つ一年だった。行動援護資格を得たヘルパーは増えているが、月の稼働を抑えたり登録のみのヘルパーも増えている。12月の実地指導で、業務や利用者整理など課題が浮き彫りとなる。

② 職員配置と研修（職員数は2017年1月現在）

常勤職員が2名異動（内1名時短副主任）し、育休中の副主任が4月から時短勤務で復帰、新人1名と異動職員1名が増えて常勤7名と事務パート1名という安定した体制で新年度をスタートしたが、6・9・11・1月に居宅と行動援護のヘルパーが退職・休職で、稼働率が下がった。登録ヘルパーは9名獲得出来たが、退職者含めると、月での稼働者は減っている。研修では、法人研修は平日夕方が多い為参加率は低かったが、外部研修（主にすみすみ）は、平日午前など参加しやすいものが多く、職員での参加率を上げられた。ヘルパー勉強会では、例年通りの参加率だが、早めにメールで周知するなど少しずつ上がるよう改善を図っていく。

③ 事業内容



今年度は、特に支援の質の向上に向けた取り組みに力を入れた。ヘルパーミーティングを定期的に行ない、そこで挙げられた課題をヘルパー通信に反映したり、日々の登録ヘルパーへの連絡に活かすなど行ない、利用者支援の充実を図る。また、悩みの多いケースはプチケース会議を実施したり視覚支援・スケジュール導入、情報収集としての法人内連携のメールのやり取りを増やしたり、「ガイドヘルパー研究会（知的）」立ち上げと運営・シンポジウム開催実施する事が出来た。

④ 品質管理

今年度は、派遣での報告が多かった。ヒヤリでは、派遣中の手荷物紛失が4件、受給者証確認ミス1件、派遣の遅刻・失念・場所時間間違いが5件、他害・暴力が3件挙げられる。ヘルパーの規程に反する行為(おごり・割り勘・自腹)が3件あり、改めて勉強会や通信などでの周知徹底を行なった。事故では9件挙がり、行方不明が1件、請求ミス3件、手荷物紛失4件であった。今年度も事務作業ミスは、事務員パートが増えた事でほとんど見られなかった。

【2017年度の計画】

① 予算案のポイント

費目	予算(単位:千円)	前年比	算出根拠・購入物品など
収入	53,915		主任がコーディネーターも兼務する事で、稼働出来る職員が増え、稼働率は上がる見込み。 ・平日：通院介助などで営業をかける。 不登校・引き籠りの方対象に移動・行動営業。 ・土日祝：なかなか依頼の仕方の分からない利用者中心に営業かける。
支出	39,321		・サービス実施記録 1冊250円×400冊 ・ファイル 1個30円×90個 ・企画業務委託費(5千円×12ヶ月) ・強度行動障がい支援者養成研修(10400円×4人) ・人件費：事務員1名(4万円×12ヶ月)

② 主課題

1人でも多く登録ヘルパーを確保し、利用者のニーズに応えられる様にしていく。新規利用者についても、面談を実施し、隙間を埋める形で無理なく増やしていけるようにする。職員の研修を増やし、様々な派遣に対応できる人材育成、お互いが協力し合えるチームワーク作りを目指す。キャンセル時の営業を徹底して行ない、稼働率を上げる。支援計画作成を、効率良く行なっていく。

③ 年間事業計画(予定)

月	事業・行事等	会議	研修計画(内部・外部)
4		ヘルパーミーティング【週1回】	ヘルパー勉強会(登録ヘルパー対象)【毎月2回】
5			*すみすみ研修に適宜参加
9			強度行動障がい研修(基礎)
11			強度行動障がい研修(実践)
2	ガイヘル研シンポジウム		
3	春休み		ヘルパー交流会(2回)

☆ガイヘル研究会【知的】：2016年5月にサンフェイス(生野区)とじらふヘルパーとで発足した会です。2ヶ月に1回の定期会では、ガイドヘルパーの質の向上目指して意見交換を行っています。

2017年度1月には、ガイヘルの魅力、やりがい、“くそヘルパー”の撲滅などを知ってもらう為に、第1回シンポジウムを開催しました。72名の参加で多くの方々に伝える事ができました。